

適塾特別展示

西洋の知と適塾



2015年

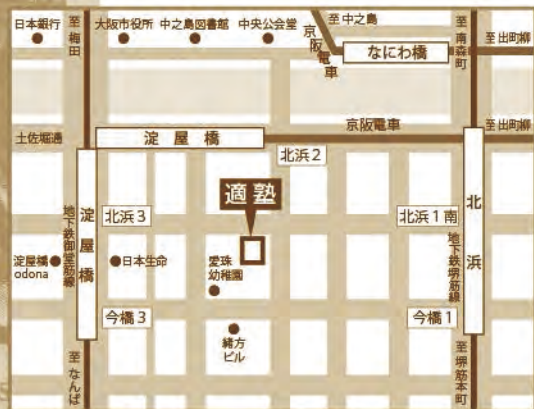
9/15(火) ~ 27(日) (9/24休館)

午前10時~午後4時

武士の家に生まれた緒方洪庵は、生来の病弱さから「知」の力に活路を求め、医学の道を志します。大坂・江戸・長崎で蘭医学を学んだ後、適塾を拠点に医療と教育に従事します。適塾における洪庵の活動は、蘭学に対する深い造詣と、それを社会に還元する使命感、そして西洋の知の資源たる洋書によって支えられていました。

今回の特別展示では、大阪大学適塾記念センターが所蔵する適塾関係資料から、『解体新書』や洪庵が翻訳・執筆した著書とその原書の比較や、適塾出身者が所持し「洪庵文庫」に提供した洋書等を紹介します。洪庵・適塾生が頼んだ「知」の力の源泉に迫ります。

〈主な展示資料〉 ヨンストン『動物図説』(1660年)、『解体新書』(1774年)とその原書(1734年)、宇田川榛斎『遠西医方名物考補遺』(1822年)、緒方洪庵『西洋新旧度量比較表』(1843年)、同『扶氏経験遺訓』(1857年)とその原書(1838年)、同『虎狼痢治準』(1858年)、黒田麴廬『漂荒紀事』(『ロビンソン・クルーソー』の和訳本。1850年)、『歩兵操典』(1857年)、長与専斎『松香私志』(1902年)



場所: 適塾 (史跡・重要文化財)

大阪市中央区北浜3丁目3番8号 電話 06-6231-1970

入場料: 一般 260円(140円)、大学生・高校生 140円(80円) ※()内は20人以上の団体
小学生・中学生および大阪大学の学生 無料 ※中学生以下の方は引率者が必要

交通: 京阪電車淀屋橋駅・北浜駅、地下鉄御堂筋線淀屋橋駅より徒歩約5分

主催: 大阪大学適塾記念センター・適塾記念会

大阪大学



大阪大学
適塾記念センター

西洋の知の導入

Ontleedkundige Tafelen と『解体新書』

杉田玄白・前野良沢らは、明和8年(1771)江戸小塚原における人体腑分け見学に際し、ドイツの解剖学者ヨハン・アダム・クルムスの *Anatomische Tabellen* (『解剖学表』1732年)のオランダ語訳 *Ontleedkundige Tafelen* (『解剖学表』1734年、いわゆる『ターヘル・アナトミア』)の正確さに感銘を受け、以後3年の歳月をかけて翻訳を行いました。当初はオランダ語や人体の構造に精通しているとはいえない状況であったにも関わらず、訳文は正確であり、玄白らの苦勞が察せられます。『解体新書』によって西洋解剖学説がはじめて日本に紹介され、当時の蘭学界に大きな影響を与えました。



Ontleedkundige Tafelen (大阪大学適塾記念センター所蔵)



『解体新書』(大阪大学附属図書館所蔵)

緒方洪庵と西洋の知

「西洋新旧度量比較表」と『遠西医方名物考補遺』

緒方洪庵は江戸遊学中、蘭学者坪井信道、およびその師の宇田川榛斎(玄真)に学びました。榛斎は著書『遠西医方名物考』補遺編を編纂するにあたり、洪庵にオランダの度量衡を日本のそれに換算することを任せました。度量衡比較表は『遠西医方名物考補遺』の凡例に掲載され、はじめて洪庵の名が書物に印刷されることとなりました。洪庵は、医学本体のみならず、度量衡の算出(「西洋新旧度量比較表」といった学問の基礎的な部分においても、学問の進展に貢献していました。



西洋新旧度量比較表(大阪大学適塾記念センター所蔵)



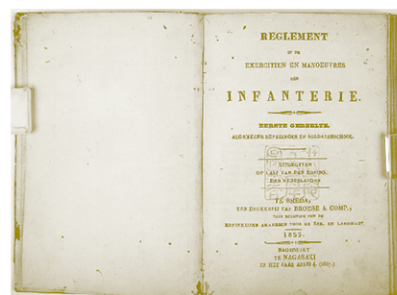
遠西医方名物考補遺(大阪大学附属図書館所蔵)

適塾生と西洋の知

REGLEMENT OP DE EXERCITEN EN MANOEUVRES DER INFANTERIE. (『歩兵操典』)

適塾生・長与専斎の遺稿をまとめた『松香私志』(1902)では、適塾は元来医家の塾であるとはいえ、その実態は蘭書解読の研究所であり、医師に限らず、兵学者・砲術家・本草学者・化学者など、当時蘭学を志す人は皆入塾して支度をした、と述懐されています。

REGLEMENT OP DE EXERCITEN EN MANOEUVRES DER INFANTERIE. (原著1855、長崎復刻版1857)は『歩兵教練並びに演習規則集』『歩兵操典』などと訳される歩兵の訓練についての書籍です。洪庵の死後、弟子達が書籍を持ち寄り設立を目指した「洪庵文庫」の印が押されており、適塾出身者の学問的関心が広い分野にわたっていたことを示しています。



REGLEMENT OP DE EXERCITEN EN MANOEUVRES DER INFANTERIE.
(大阪大学適塾記念センター所蔵)